

授業概要

「人の心」を理解するために行われる心理学の実験や調査で得られる数値データは、数値の意味を解釈するために必ず統計的処理が行われる。心理学統計法Ⅱでは、心理学統計法Ⅰを基に、心理学研究で用いられる様々な統計的技法のなかから、相関分析、分散分析、多変量解析等の一部を紹介し、基本的ソフトの操作方法についても、一部演習も含め講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など）
第 2 回	基礎統計 尺度によるデータの特徴
第 3 回	推測統計① 対応のない t 検定
第 4 回	推測統計② 対応のある t 検定
第 5 回	名義尺度の検定
第 6 回	順序尺度の検定
第 7 回	相関研究
第 8 回	分散分析① 一要因分散分析
第 9 回	分散分析② 二要因分散分析
第 10 回	分散分析の結果の読み取り
第 11 回	回帰分析
第 12 回	重回帰分析の結果の読み取り
第 13 回	因子分析
第 14 回	因子分析 尺度の信頼性の検討
第 15 回	因子分析の結果の読み取り
第 16 回	定期試験

到達目標

心理学の実験や調査で用いられる基本的統計技法について理解する。
また数値データの意味を理解する。
統計の基本ソフトを用いて分析する方法を理解する。

履修上の注意

「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」を受講しており理解していること。
表計算ソフト Excel について基本的な使用法を理解していること。
講義の最後に、受講していれば必ずわかる必須問題についての小テストを行う。

予習・復習

次回講義予定の内容について教科書をよく読んで予習をしておくこと。
講義内で行われた小テストの復習は必ずしておくこと。

評価方法

定期試験 50%、受講態度 20%、講義内での小テスト 30%にて総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しないが、以下の本を参考にする

- ・参考書：SPSS と Amos による心理・調査データ解析
- ・著者名：小塩真司
- ・出版社名：東京図書
- ・出版年 (ISBN)：2008 年 (978-4-489-00675-3)